

園目標 友だちとの生活や遊びの中で 豊かな心を持つ子の育成

オリジナル 5+1

- 1. CS 2. 保育・教育の充実
- 3. 英語教育 4. 郷土教育
- 5. 読書活動 +1 学習習慣の確立

クラスの年間目標

- <0 歳児>・・・保育者との受容的、応答的な関りの中で、聞く、見る、触れるなどの経験を通して、興味や好奇心の芽生えを育む
- <1 歳児>・・・安心してできる保育者との関係の中で、自分でしようとする気持ちが芽生える
- <2 歳児>・・・生活や遊びの中で保育者や友だちと言葉のやり取りを楽しみ、一緒に遊ぶ楽しさを味わう
- <3 歳児>・・・保育者とのかかわりを大切に、安心して友だちと一緒に遊び、関りを広げる
- <4 歳児>・・・保育者や友だちとの遊びの中で、思いを伝え合いながら友だちとの関わりを深める
- <5 歳児>・・・友だちとの様々な体験を通して、いろいろな方法で表現する楽しさを味わい豊かな心を育む

思考力の芽生え

協同性

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

道徳性・規範意識の芽生え

豊かな感性と表現

自然との関わり・生命尊

健康な心と体

自立心

社会生活との関わり

希望や目標に向かって努力し、自ら考え学ぶ子ども

自分や他人の良さを認め、尊重し合い、思いやりのある言動ができる子ども

健康の大切さを知り、心身を支え、よりよい生活習慣を身につける子ども

地域社会の一員として自覚をもち、木曾岬町の良さを感し、ともに生きる子ども

○生きる力の基礎を育む幼児教育の推進

- ・自発活動が意欲的にできる環境構成の工夫
- ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ場づくり

○一人ひとりを大切にされた教育・保育の推進

- ・担当制保育の導入
- ・個に応じた援助の充実

○グローバルな視点を育む教育の推進

- ・教員の研修の充実
- ・効果的な ICT 機器の活用(電子黒板)
- ・ALT を活用し、英語に触れ合う活動の推進

○支援を要する子どもへの対応

- ・臨床心理士、保健師による巡回相談と CLM 活用
- ・家庭との連携を密にし、子どもの育ちを支える

○道徳性の芽生え

- ・良いこと悪いことが分かり、考えながら行動できる態度の育成
- ・決まりの大切さに気づき、守ろうとする心の育成

○思いやりの心の育成

- ・自分や友だちを大切にしている気持ちが育つための場面の設定
- ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づくため教員の関わり方の工夫

○社会や人とかかわる力の育成

- ・友だちと一緒に遊ぶ良さを感じられる場づくり
- ・自分で考え、自分で行動する子の育成

○不登園・虐待への対応

- ・不登園児への対応

○体力づくりの推進

- ・楽しさや気持ちよさを味わうことで、進んで戸外で遊ぼうとする態度を育む
- (這う・跳ぶ・走る・投げる・登る・ぶら下がる)

○健康づくりの推進

- ・自分の健康に関心を持ち、身の回りを清潔にし、生活に必要な活動を促す
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」などの健康的な生活リズムを身につくために保護者と連携をする

○食育の推進

- ・先生や友だちと一緒に食べることで、食事を楽しく大切に思う気持ちを育む
- ・栽培活動を通じて食べ物への興味・関心を持たせる

○地域や保護者と協働した園づくり(CS)

- ・地域人材を活用し、行事の充実を図る
- ・園だよりやホームページ、フォット一枚等での活動を発信し、保護者や地域と連携する

○木曾岬の事を好きになる取組

- ・地域活動への参加を通しての出会い
- ・地域の伝統や文化を体験する取組

○子どもたちの命を守る取組

- ・避難タワーを活用した避難訓練の実施
- ・災害発生時の保護者や地域との連携

○子どもの健全育成の推進

- ・「子育て 8 つの指針」の啓発
- ・ブックリスト読書登山や、町立図書館の利用
- ・園の図書貸出を通じた家庭読書の推進

《到達目標》

- ◇「子どもは園生活に満足している」と考える保護者の割合 (85%以上)
- ◇「園は子ども一人ひとりに応じた丁寧な保育や指導を行なっている」と考える保護者の割合 (80%以上)

《到達目標》

- ◇「子どもは自分の経験を言葉で表現できるようになってきた」と考える保護者の割合 (85%以上)
- ◇「人間関係において我慢をするなど折り合いをつけられることができるようになってきた」と考える職員の割合 (60%以上)

《到達目標》

- ◇「園は体力づくりに取り組んでいる」と考える保護者の割合 (85%以上)
- ◇「園は基本的な生活習慣が身につくような保育に取り組んでいる」と考える保護者の割合 (85%以上)

《到達目標》

- ◇「『子育て 8 つの指針』を自分の子育ての参考にしたことがある」と考える保護者の割合 (60%以上)
- ◇郷土に愛着を持たせる活動をしていると考える保護者の割合 (85%以上)

○連携教育の充実

- ・こども園・小学校の授業交流(年2回)
- ・子どもの実態把握と園・小の教職員との情報共有
- ・「接続期に育みたい子どもの姿」を踏まえた保育・教育活動
- ・園児と児童の具体的な交流の検討(新一年生を迎える会、観劇会)

○『夢に向かってがんばる木曾岬っ子応援キャンペーン』の取り組み

- ・三重県教育委員会作成「生活チェックシート」の活用
- ・おすすめ絵本、読み聞かせのワンポイントアドバイスの情報発信
- ・一日の出来事等、顔を見ての親子対話
- ・生活リズムが整ってきたと考える保護者の割合(70%以上)
- ・家庭で絵本の読み聞かせの習慣がついたと考える保護者の割合(70%以上)